

# ローヤルバナナ売場活性化へ 子ども向けイベントで需要喚起

輸入商社の㈱ローヤル(本社・京都市、中野堦是社長)が、バナナ販売の活性化に乗り出している。第1弾として京都市中央卸売市場第一市場で23日に開かれた「市場まつり」に参加。バナナア

ート体験などの子ども向けイベントを繰り広げることで、需要喚起につなげようとしている。フィリピンの作付面積拡大や中南米産の入荷増により、今年に入ってからバナナの輸入量が増加している。財務省の貿易

統計によると、4月以降、前年を上回る入荷量で推移。供給過剰で浜在庫が膨み、市況低迷が続いている。

こうした厳しい局面を打開しようと、同社では子ども向けの体験型イベントを企画。売場の活性化に寄与する取り組みを始めた。

活動の第1弾となった市場まつりでは、フィリピンから取り寄せたバナナの本を設置。来場者がバナナをもぎ取った後、つまようじでバナナの皮に文字や絵を描くバナナアート体験を繰り広げたところ、開始早々から多くの人が詰めかけ盛況となった。

また、同社のブースでは、ホットバナナとヨーグルトの食べ方を取り上げた今年21日の「林修の今でしょ！講座」の放映内容をPOPで紹介。さらに、日本バナナ輸入組合による検証動画が来月13日にKBS京都テレビの情報番組「おやかまっさん」で放映予定である

ことも告知し、体調管理への関心が高まる冬場に向けてバナナの機能性を強調した。

同社バナナグループのフックは、「量販店でも子ども向けのイベントを展開し、バナナ売場の活性化



人気を集めた京都市市場まつりのイベント

につなげたい」と話していた。